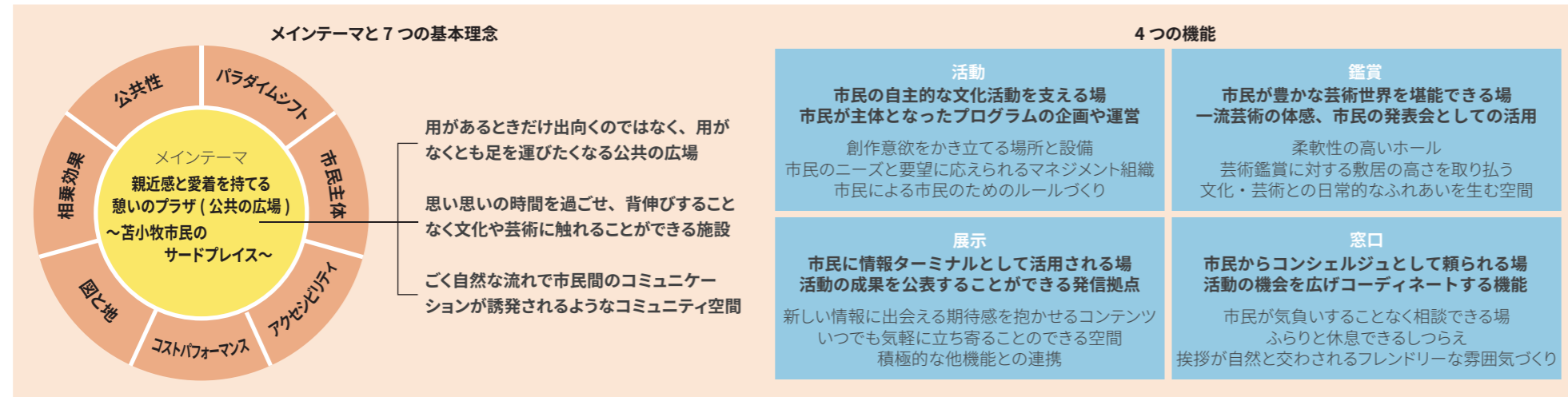


(仮称) 苫小牧市民ホール建設基本計画 概要版

基本計画の位置づけと基本構想の概要

基本計画は、新しい施設で想定される活動に対応する適切な規模と用途を定め、建物の平面計画やボリュームの基礎的な検討を行い、**将来にわたって適切に維持管理するための考え方を整理し、施設整備の基本的な指針を示す**ものです。
本基本計画では、基本構想で示されたテーマ・理念・機能に基づき、**今後の整備手法の検討や管理運営計画の策定へ向けた施設整備の基本方針**をまとめています。

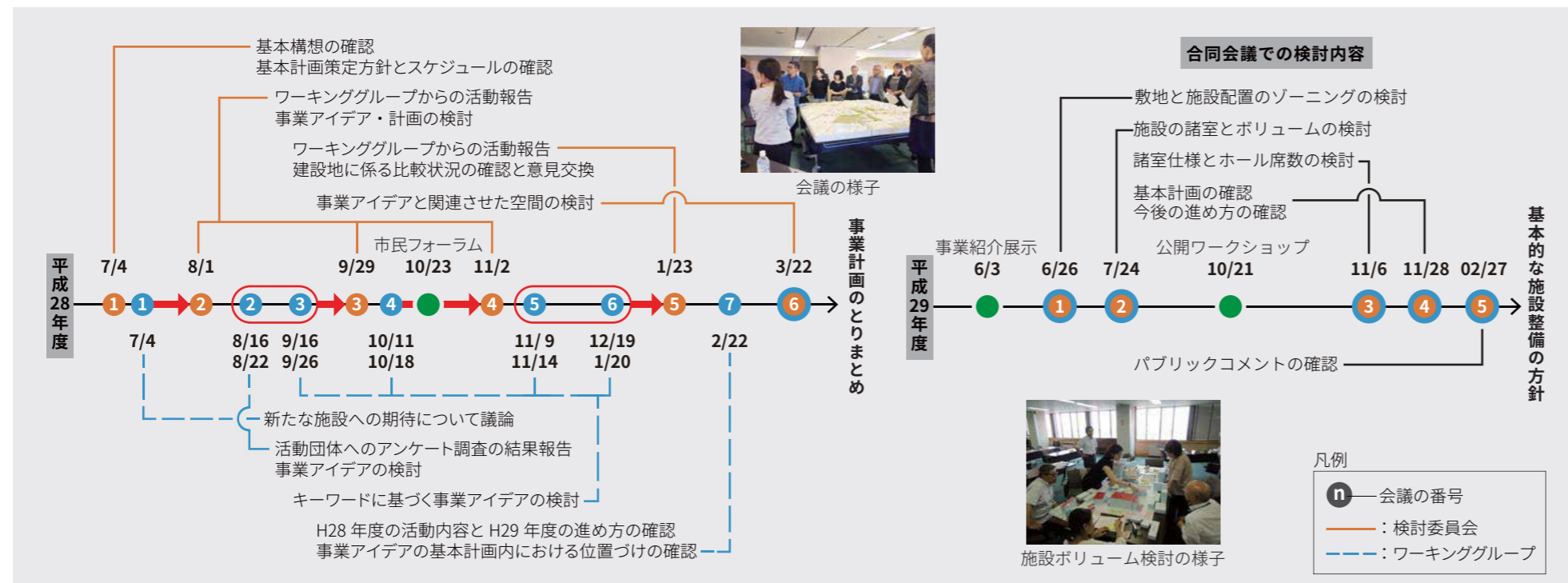
基本構想では、市民ホールの基本的な考え方として、事業の目標となるメインテーマを定めたとともに、**7つの基本理念と4つの基本的な機能**を示しました。メインテーマには「**親近感と愛着を持てる憩いのプラザ（公共の広場）～苫小牧市民のサードプレイス～**」を掲げました。これまでの市民文化施設で育まれてきたコミュニティを継承し、さらに高度で創発的な文化・芸術に係る活動と交流を振興する拠点として、新しい複合施設の整備を目指します。



これまでの検討経緯

基本構想及び基本計画策定事業における、コンセプトに関する事項や機能、設備及び規模に関する事項などについて検討することを目的として、**検討委員会**を設置しました。また、「活動」「鑑賞」「展示」「窓口」の4つの機能に応じて「活動」「鑑賞」「展示・窓口」の3つの**ワーキンググループ**を設置しました。

平成28年度は、**事業計画のとりまとめと施設整備の方針についての意見交換**を実施しました。
平成29年度は、**検討委員会とワーキンググループのメンバーの合同会議**を実施しました。



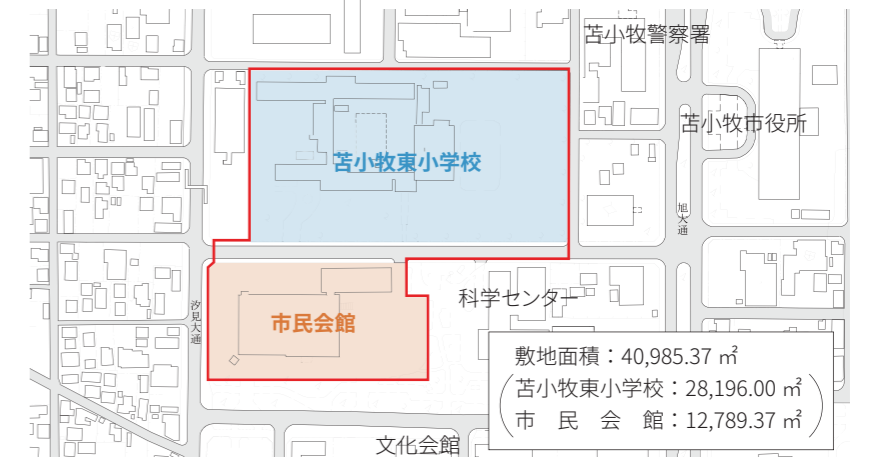
複合対象施設

市民ホールには、**市民会館、文化会館、労働福祉センター、交通安全センターの4つの施設を統合**します。

市民会館 敷地面積：12,789.37 m ² 延床面積：8,909.17 m ² 開館年：1968年（築49年） 収容人数：大ホール 1,630席	文化会館 敷地面積：2,029.65 m ² 延床面積：3,605.15 m ² 開館年：1979年（築38年） 収容人数：ホール 500席
労働福祉センター 敷地面積：3,163.03 m ² 延床面積：1,100.11 m ² 開館年：1976年（築41年） 収容人数：ホール 500席	交通安全センター 敷地面積：317.05 m ² 延床面積：393.18 m ² 開館年：1983年（築34年） 収容人数：2階受講ホール 84席

建設予定地

建設予定地については、「市内中心部であること」「市有地であること」「現市民会館敷地よりも大きい面積であること」を基本とし、苫小牧市教育委員会が市内初となる小・中学校の併設を実施するにあたり、苫小牧東小学校を苫小牧東中学校敷地へ移転改築を決定したことにより、土地利用が可能となる**現苫小牧東小学校敷地が最も適している**と判断しました。さらに、駐車場の台数確保等のため、**隣接する現市民会館敷地と一体的な利用を図ること**とします。



事業アイデアの立案

活動事業の立案にあたっては、基本構想で定められた施設のメインテーマを踏まえ、**5つの事業コンセプト**と、それらに基づく**10個の事業方針**を定めました。これらのコンセプト・方針には、施設で実施する活動事業が複数の機能・スペースを横断し展開することが意図されています。施設の事業はそれぞれの機能・

スペースに従って実施されるという従来の発想ではなく、**一つひとつの事業がコンセプト・方針のもとで一つの複合施設として明確な目標を持ち、機能・スペースにこだわることなく展開されること**を目指します。

事業コンセプト	事業方針	活動スペース	鑑賞スペース	展示スペース	窓口スペース
育てる	文化芸術への親しみと向上心を喚起する	01 ソロデビューへの道	02 じわじわキャンペーン 03 苦小牧アワード 04 響きのソムリエ体験プロジェクト		05 とまこまい文化口座
	次世代の文化芸術の担い手をまちぐるみで応援する	06 お茶の間フレンズ		07 デコレーション大作戦	08 とまこまいキッズ基金
集う	いつでも気軽に立ち寄ることのできる空間を整備する	01 レベルアップ! みんなの部屋 02 週末マルシェ de ライブ 03 ゴーゴーナイトキャンペーン	04 ふらっとコンサート 05 どこでもアクション実行委員会 06 まちなかスタジオ設計室 07 CC-PON!(カルチャークーポン)	08 わたしの絵日記プロジェクト 09 子どものわくわく社会見学 10 コドモの止まり木	11 トワイライトカフェ・プレミアムシート 12 Living Bar 13 進め!カルチャーバスクラブ 14 トクトク予約
	驚きと感動を共有できる文化芸術活動特有の体験を提供する	15 おもてなしフェスタ 16 寄合いバル実行委員会 17 カルチャーフェスティバル 18 紅白コミセン合戦	19 びっくり箱プロジェクト 20 シアター de アフターパーティー	21 もったいないプロジェクト 22 北の歳時記 ～アウトドア展示推進企画室～	
知る	誰もが関心を持つ情報と来訪の機会を発信する	01 苦小牧の味を守る会	02 O×デー	03 教えて!子ども特派員 04 誰でも印刷工房	05 広報とまこまい増刊号 文化編集部 06 とまこまっポップ・アート&カルチャーポイント
	来訪を通じた偶然の出会いや新たな発見ができる場を創出する		07 特別公開!裏方の世界	08 とつげき新聞部 09 サイン考案部 10 図書室(ライブラリー)deライブ	
関わる	市民が主体の居場所を共に創りあげる	01 腕利きサポート部隊 02 手作り食堂 in 市民プラザ 03 チャレンジショップ in 市民プラザ 04 共にアクション実行委員会	05 NO MORE 交通事故キャンペーン	06 ワクワク展示室 07 DIY 応援部	08 いきいきディレクターズ 09 魅せる事務室
	楽しみながら持続できる活動を展開する	10 芝生ファンクラブ 11 まちカフェ企画室		12 週刊おすすめリレー	13 ボランティアコーディネーター協会
つなぐ	世代間交流や機能・分野を越えた協働を促す	01 大人のいきいきカレッジ 02 見習い親父バンドプロジェクト 03 お手軽文化講座	04 あなたに魅せる公開リハーサル 05 15の夜~親子の語り		06 施設運営アカデミー
	顔の見える関係を構築し文化芸術の輪を広げる	07 なかま to ナカマ	08 文化芸術コンソーシアム		09 施設コンシェルジュ 10 空き部屋活用不動産

事業アイデア例

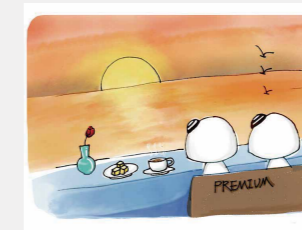
育てる 01 ソロデビューの道



新しい施設では、気軽に習い事が始められ、それらを発表できる機会をつくります。最初は習い事でも、講習会などに参加し合格すれば、発表の機会が得られます。

この施設でソロデビューができるかもしれないというやる気を高めるプログラムです。

集う 11 トワイライトカフェ・プレミアムシート



静かに本を読んだり、コーヒーを飲んだりする時間はとても大切です。そこで、子どもたちが帰って夜の活動が始まる直前だけ現れる、静かな場所をつくります。

特別な場所として、大人のより所となることを目指します。

知る 10 図書室(ライブラリー) de ライブ



図書室があることで、特別な目的がなくとも人々が施設へ来る機会をつくります。

また、公演に合わせて本を置くことや、イベントの特集コーナーをつくることも出来ます。

さらに、図書室がライブ会場となり、本に関する演劇が行われるなど、本からつながる企画を生み出す場にもなります。

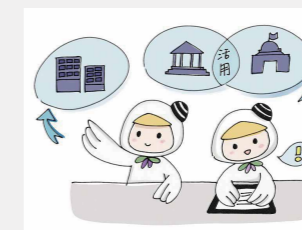
関わる 02 手作り食堂 in 市民プラザ



「手作り食堂 in 市民プラザ」は、日替わりで食堂を運営していく取組です。日替わりでご飯をつくる人が代わる仕組みにすることで、活動に参加しやすくなります。

この取組では、レストランから、市民のコミュニケーションをつくることを目指します。

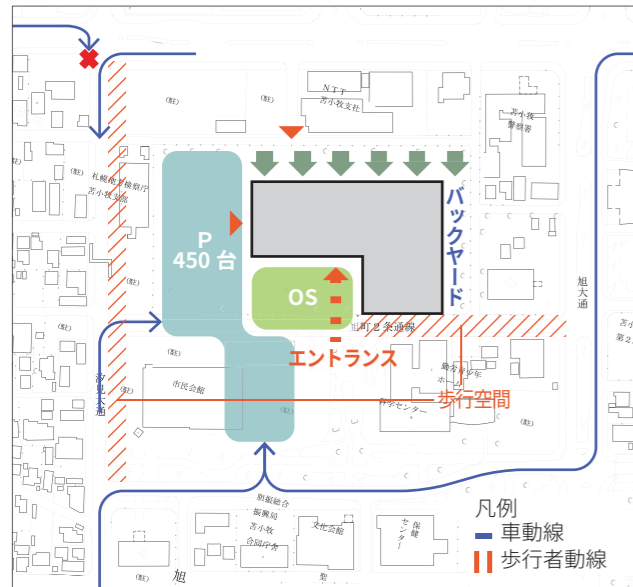
つなぐ 09 施設コンシェルジュ



予約が重なった時に市内の他の施設や、その他のサービスを見つけてくれる予約専門のスタッフをつくります。

そうすることで、子どもや高齢者でも市内の公共施設を有効に利用できることを目指します。

ゾーニングと動線計画



施設整備の方針と内容は、基本構想で定めた7つの基本理念と4つの基本的な機能を実現するために、**想定される新しい活動に対応する適切な規模を検討した上で、市民が将来に渡ってより長く安全に利用できる施設構成**を検討しました。

ゾーニング

フライタワー^注・搬入出口による景観上の配慮
騒音や安全面の対策を踏まえた適切な配置
現在行われている文化芸術活動の円滑な移行

- ①東寄せ建物・西寄せ駐車場の配置
- ②南面におけるオープンスペースの配置
- ③北面における建物の後退

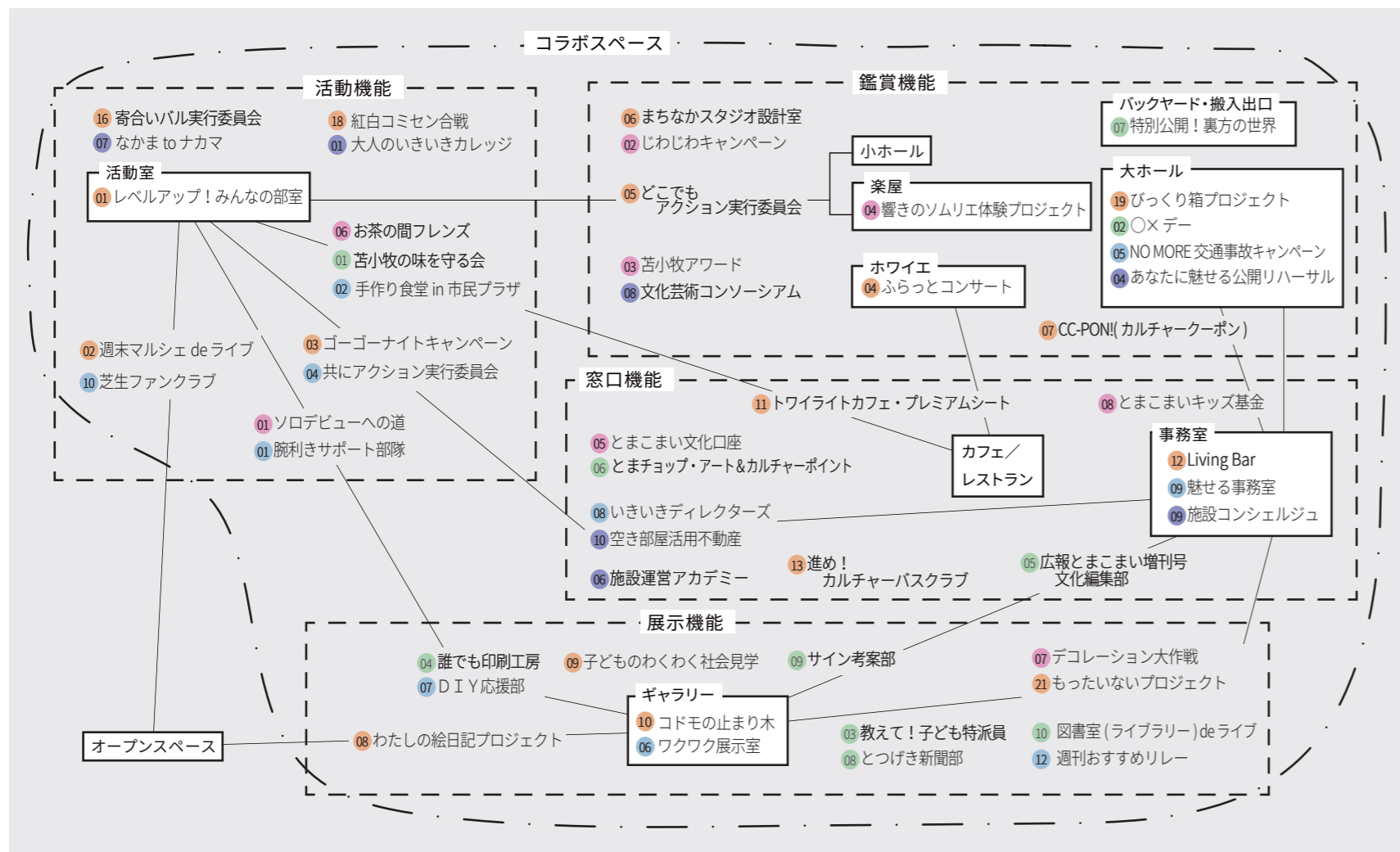
注) 劇場などの舞台の上部にある演出に必要な機材などを格納するための高さのある吹抜け空間。

動線計画

スムーズなアクセスができる自動車動線
駐車場の確保
歩行者にとっての安全性や快適性

- ①南面と西面を基本としたエントランス
- ②安全な自動車通行
- ③ゆとりある歩行空間

空間構成コンセプト



諸室の配置

機能・スペース	面積 (㎡)	諸室	備考
鑑賞	7,000	大ホール 小ホール ホワイエ 楽屋 バックヤード・搬入出口	1,200 - 1,300 席 400 - 500 席
活動	1,500	活動室 30㎡級 50㎡級 70㎡級 100㎡級 *複数スペースを一体にして、300㎡級の多目的室を確保	6 部屋 (和室 1 室) 6 部屋 2 部屋 3 部屋
展示	200	ギャラリー	
窓口	300	事務室 カフェ/レストラン	
コラボ	1,000		
その他	1,000	機械室等	
延床面積	11,000		

コラボスペースの設定

「活動」「鑑賞」「展示」「窓口」の4つの機能を核にしますが、**それぞれの機能や用途の相乗効果が生まれる場として、特に「コラボスペース」を新たに設けます。**コラボスペースは、オープンスペースや4つの機能の諸室と密接な関係を持たせた配置とし、図と地のバランスが取れた市民の居場所づくりを目指します。

4つの機能の基本的な配置の考え方

鑑賞機能については、敷地の東側となる大ホール・小ホールを中心に、建物東側への配置を基本とします。窓口機能については、南面と西面にエントランスがあるため、建物中央を基本として配置することで建物内での目配り・気配りを高めます。さらに、各機能が持つ諸室の特徴を十分に考慮した上で、**それぞれの諸室が特定の機能の目的のみに利用されるだけでなく、各機能の相互補完や共同・共有による柔軟性に富んだ利用ができるよう配置を工夫します。**

コラボスペースのイメージ

苦小牧にはゆっくり滞在できる場所が少ないので、複数人で会話ができることはもちろん、1人でゆっくり過ごせる場所があると良い

中高生はフリースペースに食べ物を持ち込み、大人はカフェで過ごすなどの棲み分けができると良い



議論の様子 (公開ワークショップ)

壁越しに他団体を覗くことができれば交流につながるだろう

様々なイベントの情報を知る掲示板があると良い

どこで何をやっているか、市内の活動が一挙にわかる施設となると良い

ホールだけでなく、施設全体が市民の発表の場になると良い

整備手法

整備手法

施設の建設に係る整備手法には、大きく分けて、本市が直接発注をする方法と、民間の資金、経営能力と技術的能力を活用するPFI（Private Finance Initiative）が挙げられます。

いずれも検討すべき課題がありますが、本市としては、これまで基本構想から基本計画策定に至り、**長期間に渡って丁寧に積み重ねてきた議論や検討内容を着実に反映させることと財政負担軽減の両立**を念頭に整備手法を採用することが望ましいと考えます。

概算事業費

これまでの各施設の利用状況や新たな利用を踏まえ、延床面積及び概算事業費は次のとおり想定されます。

なお、建設財源については、従来の起債や交付金・補助金のほか、民間資金などの総合的な検討を行い、将来的な財政負担を考慮して検討を進めます。

延床面積

▶ 11,000～12,000 m²

単価

▶ 70～80万円 / m²

事業費

▶ 77～96億円

管理運営体制 / 施設マネジメント

管理運営体制

未経験の施設において長期的・持続的な管理運営体制を構築するためには、相応な**経費の算出**や**継続的なスタッフ養成**が課題となります。

そのため、適切な運営管理料の算定による**経費の削減**、基本方針を踏まえた管理運営者選定に際する**条件の明示化**、その後のモニタリングに際する**的確な評価手法の確立とコミュニケーションの強化**を図ります。

- ・長期的な視点による安定的かつ持続的な管理運営体制
- ・機能間のコミュニケーションによる柔軟な管理運営体制
- ・市民が主体となる管理運営体制

市民協働体制の構築

【利用者としての参加】

幅広い年齢層への施設利用の機会の提供

- ・チケット販売方法の工夫や会員制の導入、情報発信
- ・鑑賞者以外としてのワークショップや体験型事業への参加

【運営への参加】

市民の経験を生かした参加

- ・事業を行う際の案内
- ・チケットのもぎりや受付支援などの接客業務
- ・手話や通訳、介助などの専門業務

【事業企画への参加】

市民自身による事業企画・実践

- ・市内各団体との人的ネットワークを有し、自らも文化芸術、社会活動に精通している市民らによる運営委員会の組織
- ・専門のアドバイザーや事務局と連携した事業企画・運営

施設マネジメント

各機能の専門的人材に加えて、**全体を統括する人材の登用、市民スタッフ育成の仕組みづくり、まちづくり活動との連携**など、**各分野を統合した管理運営体制**を構築します。

また、経営的側面からのコストパフォーマンスのみでない、**市民の誰もが気軽に利用できる公共施設**を追及します。

施設利用の考え方

【開館時間、休館日】

- ・気軽な施設利用を促す開館時間、休館日の設定
- ・これまで文化活動に触れる機会が少なかった市民の施設利用促進

【使用申請方法】

- ・インターネットやSNSを利用した申請の導入
- ・利用者の利便性と管理の効率化の検討

【使用決定方法】

- ・使用希望日や時間帯が重複した場合の使用決定方法の検討
- ・複合施設であることの利点を生かした柔軟な対応

【使用時間及び使用料の設定】

- ・貸出時間の区分の見直しや、利用目的などによる施設や設備の使用料設定の検討
- ・児童・生徒の活動支援の仕組みや活動規模に応じた柔軟な貸出方法の検討

今後のスケジュール

これまで、平成27年度に基本構想、平成28・29年度に渡り基本計画を策定しました。今後は、民間活力導入可能性調査等を行った上で整備手法を検討し、事業推進に向けた手続きを行い、平成36年度（2024年度）の供用開始を予定しています。

市民参加事業

市民フォーラム（市民会館）

- 平成28年10月23日開催
- 参加者数：約200名

可児市文化創造センター ala 館長兼劇場総監督の衛紀生氏による講演と、市長や市民を交えてのパネルディスカッションを行いました。



<衛氏の講演のポイント>

- ・公共劇場の文化芸術と社会課題を対応させた取組を行う必要性
- ・常識を打ち破ることによる、文化芸術から縁遠い市民への働きかけ
- ・市民やまちにとっての価値を徹底的に考え実践することの重要性



事業紹介展示（イオンモール苦小牧）

- 平成29年6月3日開催
- 参加者数：約600名

市内外様々な地域から多くの世代の方々にご来場いただき、新たな施設の検討状況や事業アイデアについて知っていただきました。



<実施内容>

- ・市民ホール建設検討についての各種パネルの展示
- ・現市民会館周辺の敷地模型の展示
- ・全63事業アイデアに対するシール投票



公開ワークショップ（COCOTOMA）

- 平成29年10月21日開催
- 参加者数：23名

参加者の方々に新たな施設を目指すサードプレイスの考え方についてご理解いただくとともに、施設への様々なご意見をいただきました。



<実施内容>

- ・サードプレイスについてのレクチャー
- ・事業アイデアの紹介と関心のあるアイデアについての議論
- ・事業を行うための場所の検討

